

風 水 譚

第 3 号



蒙談会発行

はいじょうけつ

盃状穴―その習俗の考察―（その三）

柴田 眼治

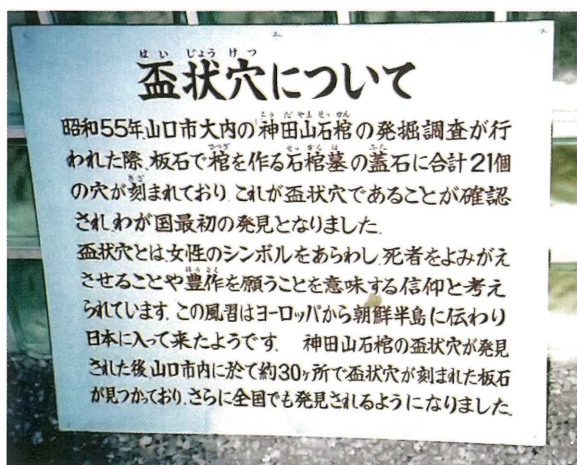
はじめに

盃状穴（カップマーク）は石の表面に掘られた盃状の窪み穴である。昭和五十五年（一九八〇）五月に山口市大内矢田の神田山古墳の蓋石（ふたいし）に穿穴（せんけつ）してある古代遺物が初めて発見された。これが契機となって大内地区をはじめ市内各地、山口県内外や外国でも発見や報告が相次いだ。しかし、何のために盃状穴が穿掘されるのかはよく分かってはいない遺物なのだ。

形状から女性のシンボルを表していると



神田山石棺 蓋石の盃状穴
（山口市歴史民俗資料館展示）



盃状穴の説明（山口市歴史民俗資料館）

いい、多産や豊穰を祈願するための造形だといわれる。古墳の蓋石の盃状穴は死者の再生や魂の蘇（よみがえ）りを祈ったものといわれる。朝鮮半島では穴に粟粒を入れると男子

出生が適うとする風習があり、性穴という。ヨーロッパではフランスやデンマークなどで発見されている。牛や山羊の乳の増産を祈るため、穴の中へミルクやチーズを入れるという。この風習は乳製品や牛など家畜の豊穣の祈願のためとされている。

県内では美和町にある丸石の盃状穴は縄文時代のもといわれ、古い。錦町の大岩盤の多数のカップマークは弥生時代のような。神田山のは古墳時代後期で四く五世紀にあたる。今回は山口近辺にある江戸時代の盃状穴をご紹介します。

【山口大神宮】

山口大神宮の手水舎の西に多賀社がある。その下に立派な石灯籠がある。

その四脚を支える台座石に盃状穴が約十五個掘ってある。比較的浅い分と北、南、西の



山口大神宮境内の多賀神社と手前の石灯籠

縁には深い穴が見られる。台石は明和五年とあり、奉納者であるのか「納谷全英」とある。



灯籠の台座にある盃状穴



灯籠と四脚の台座

【防府天満宮】

防府の天神様には大きい石灯籠が一対あり、その台座に盃状穴が多数ある。



盃状穴がある防府天満宮の石灯籠（手前の一対）



社殿側から見た左右一対の石灯籠

この石灯籠も明和五年奉納とあり、山口大神宮と同じ年であるのが興味深い。盃状穴は灯籠が安置された後に穿穴されたかどうか



灯籠の台座に盃状穴

は不明であり、また、誰が何の目的で穿穴したのかも不明だ。推測として神社仏閣の灯籠や手水鉢に多く見られるところから、そのお宮やお寺の神仏の功德やご利益に期待する祈願の習俗ではなからうか。



台座下の石組にも穴



東側灯籠台石に深い盃状穴

(明和年間は飢饉が続いた)

【住吉神社】

萩市浜崎地区にある住吉神社の手水鉢の縁に大きい盃状穴が多数見られる。宝暦四年三月廿八日とある。住吉大神に海上安全や大漁を祈願して、近くの漁師やその家族の人々



萩住吉神社



盃状穴のある手水鉢

が掘ったのではないか。人知れず穿穴して祈願をこめることが必要な呪術のため、目的や作者が伝わってないと思われる。逆にいえば、人に祈願作業をみられたら祈願の効力は無くなるとのタブーがあったのかと思う。



宝暦四年三月廿八日奉納と
刻まれている



住吉神社手水鉢の縁には
深い彫りもある

【大田金麗社、八幡宮】

美東町大田の金麗社と大田八幡社の共用の手水鉢には大小様々な盃状穴がある。金麗社は菅原道真が祭祀。幕末、奇兵隊が本陣とした。近くの大田絵堂の戦いで萩の俗論派を撃破して、藩論を転換した明治維新への原点の場所だ。高杉晋作、福田侠平、伊藤博文、山縣有朋らの勇姿がしのばれる。金麗社のご祭神（菅原道真公）と奇兵隊隊旗「菅原天神」は同じであって、この地に布陣したのも、彼らの祈りのなせる業かも知れない。

大田八幡も並立して在り、応神天皇、神功皇后らの武勇にあやかっご加護を願ったと思われる。盃状穴も奇兵隊隊士の作と想像すると面白い。（写真次頁）



金麗社・大田八幡宮



盃状穴がある手水鉢

連結式
盃状穴



固い石棒で突い
たり回したりし
て掘る

【鑄錢司大村益次郎神社】

内田伸先生に教わった盃状穴。砂岩系の石で掘りやすそう。明治の作か。



大村神社の手水鉢

【野田神社】

野田神社の能楽堂の横にある大石にみごとな盃状穴があり、椿の花が石の窪みに落ち



野田神社前 能楽堂側の盃状穴のある大石

てきれいだった。今八幡の小方基次宮司によれば、この石は「百万一心」の碑をつくるため運んで来た長石であった由である。

【八坂神社】

築山館のあった地には明治に八坂神社、築



八坂神社境内の岩に刻まれた盃状穴

山神社が移築された。ここに盃状穴があり年代は古そうである。この岩に掘られたカップマークは他県で見たと同じ弥生時代の作と似ている。築山館がある頃から存在したと考えると大内氏は盃状穴に祈念していたかも知れないとロマンを感じる。

【山口市大内矢田地区】

この地区の神田山石棺の蓋石にカップマークが発見された時に、国際的な考古学・民俗学の権威国分直一博士が調査され、このマークを「盃状穴」と命名された。以後、この地から三十数枚の板石に盃状穴が発見され、山口市内各地で発見が相次いだ。これらの何枚かは、山口市歴史民俗資料館に展示してある。朝鮮半島に盃状穴が支石墓天井石に見られる。半島から近いこの地に渡来した技術集

団が居たのではないかと考えてみた。大内氏始祖は百済から来た聖明王第三王子琳聖太子との伝説だが、盃状穴習俗を伝えた半島からの人々との関連を推定するとロマンがある。

十年前にコペンハーゲンのデンマーク国立博物館の先史室を訪れた時、丸い石にカッブマークを見つけ驚いたことがある。帰国後、近くの用水路にかかる橋になっている盃状穴石板を発見して感激した。（最後の写真）

【むすび】

盃状穴は先史時代から見られる呪術的造形物とされている。日本では縄文・弥生時代から始まり、古墳時代さらに江戸時代に盛行し、明治まで続いた習俗である。ただ、これだけの長時間の歴史経過があるが、誰が何

の目的で、どうやって造形したかが、伝わっていない謎の遺物なのだ。

穿穴するには固い石棒で打突、回旋を反復して造形したといわれる。

「陰陽合するところに新たな生命が生まれる」という根本原理に基づくと考えられる。盃状穴を造る作業過程に意義があつて、その秘やかな祈願の成就のためには、人に造形の姿をみられてはならず、口外してはならないという強いタブーがあつたのではないか。このタブーを侵すと願いの効験や成就是消滅する。したがって伝承がないのではないか。以上が、現時点での私の推論と考察である。もしもいい伝えがあればご教示お願いします。



山口市大内矢田で筆者が発見した盃状穴石
箱式石棺の蓋石

参考文献

『盃状穴考・その呪術的造形の追跡』

国分直一監修

国領駿 小早川成博編集

蒙談三十六号『盃状穴の謎―古代からのメ
ッセージ―』柴田眼治

築山神社―その復興を願って―

はった
八田 ひろいち

築山神社は大内氏の築山館の跡地にあつて八坂神社の西にあるが、台風によつて千木・鰹木が倒壊し、屋根も損傷して覆布によつてかろうじて風や雨露をしのいでいる。

このお宮の沿革は、慶長十年（一六〇五）毛利輝元が大内義隆を祀るため、多賀神社境内に創建した宝現霊社に始まる。後に龍福寺境内に移転。文政十一年（一八二八）字片岡に移る。さらに明治二年（一八七〇）に現在地に移った。この時、大内氷上の真光院（天台宗氷上山興隆寺）境内に建っていた東照宮



八坂神社 社殿

の社殿を明治三年（一八七二）毛利敬親公が移築し合祀した。



石鳥居と二基の石灯籠
築山神社

主祭神は大内義隆。滅亡の際殉じた嫡男義尊、前関白二條尹房ら二十八座を配祀した。



石灯籠は氷上山の東照宮の
社殿と共に移設

大内氏歴代当主も相殿に奉斎。氷上東照宮に祀ってあった徳川家康公も相殿に祭祀した。後に大内家再興の軍を起こそうとして倒れた市川式部少輔七郎元教の霊位を追祀した。



火袋台にも
葵のデザイン



石灯籠の笠石に葵の紋

日光東照宮権禰宜の高藤晴俊氏は平成三年三月末に山口を訪れて、反徳川の長州の地



石鳥居の額石の内
側に七社宮とある

社殿前の広場に葵の紋の入った東照宮の石燈籠が建っているが、あまり知られていない。
宝前の鳥居は額石に「七社宮」と刻まれ、常栄寺の鎮守、天照皇大神など七社の石鳥居を移設したものである。



宗祇の句碑

に東照宮が現存し、石燈籠に三葉葵の御紋を見つけ、驚きと感激をもって「全国東照宮連合会会報第二十五号」に築山神社について詳細に報告しておられる。

築山館は二十八代大内教弘がこの地に営んだ私邸である。京の公卿や文人墨客らの来訪が相次ぎ、その迎賓館の役割を果たしていたといわれる。

この館には連歌師宗祇が「池はうみ こそ



築山館の残った土塁底部の幅は5メートルで中世の大名の中でも最大級

ゑは 夏の深山かな」と詠んだ豪壮な庭園があった。近年の南東域の発掘調査では池は未だ発見されていないようである。
江戸時代の天明二三年に土塁の大半の土で池を埋めたという。

この池や南の大殿堂の池の水はどこから引いたのが興味あるところだ。近藤清石生は多賀神社宮司 高橋右文の書いたものに昔の人の云い伝えとして「魚切から天花にうけた水を上堅小路の光台寺の後を通って築山へ通じる溝や樋があった。築山の北の隅から取り入れ、西側の泉水に引いた。排水は館の堀に導き、飯田町に流した水を樋を通じて（一の坂川）に放流した」と記しておられる。

土壘は西北に残るのみだが、表面は葺き石で覆われていた。後に毛利藩庁の堀の石垣や旧知事公舎の石垣に転用されたという。「箏曲組歌発祥の地」の巨大な記念石碑の斜め前下には、かなり古風な盃状穴を穿った岩がある。築山大明神は教弘公を祀る地主神である。さて、夏の八坂神社の祇園祭は、鷺の舞や三基の御神輿の渡御で賑わうが、大内文化の



箏曲組歌発祥の地の石碑

全国関係者の寄進で建立、向こうは築山神社

象徴、築山神社を参拝する人は少ない。まして、崩壊寸前のご社殿と祀られる貴い御神霊を拝する時に、山口人として何とかしなければ、と心を痛める。お宮に何うと文化財に指

定されておらず、行政の援助は見込めないそう
うだ。神社に関係される方々を中心に復興事
業委員会が結成され、寄進を募れば、再建費
用は遂次集まるのではないか。今回、大内氏
を祭祀した毛利氏の歴史的経緯を知った。山
口の歴史と伝統を大切にする復興事業の発
足が願われる。

『築山神社 御祭神』

祭神 大内義隆靈位 従二位 兵部卿

太宰大貳

相殿 大内家歴代靈位

配祀 大内義尊 従五位下 周防介

二條尹房 従一位 前関白

三條公頼 従一位 前左大臣

二條良豊 正二位 左中将

持明院基規 正三位

権中納言

冷泉隆豊 正五位下

檢非違使左衛門尉

黒川隆像 従五位下

近江権守

岡部隆景 従五位下

右衛門尉

天野隆良 藤内

大田隆道	隱岐守	軍評定衆
岡屋隆秀	左衛門尉	侍大将
小幡四郎	義實	
高橋右延	従五以下	
	民部小丞	禰宜
陶隆康	右馬允	
陶隆弘	中務小輔	鳳格道外
杉興運	従五以下	豊後守
		太宰少貳
貫隆仲	従五以下	下総守
相良武任	従五以下	遠江入道
松原隆則	木工丞	
平賀隆保	新四郎	
佐波隆連	出雲新介	
岡崎氏久	丹後守	
姓不詳光政	紀伊守	
姓不詳宣川	近江権守	

小幡名不詳	山城守
東儀兼康	因幡守
園廣忠	壹岐守
岡昌歳	兵部丞
東照大権現徳川家康	靈位
市川式部小輔七郎元教	靈位
	天王寺伶人
	天王寺伶人
	天王寺伶人

（本稿は今八幡宮社報「鴻城鎮護第四号」に
寄稿した一文に加筆したものである。）

参考文献

『大内氏實録』 近藤清石著 マツノ書店
『山口名勝舊圖誌卷第一』 近藤清石著 博古堂藏版
『大内氏築山跡Ⅴ』

二〇〇九・山口市教育委員会